

# B-4. まっすぐにしたい! (シーソー遊び～みんなで心を合わせて～)

## 常磐会短期大学付属泉丘幼稚園 (大阪府堺市) [4・5歳児]

<散歩だからこそ感じられる“うきうき・わくわく”する気持ちが源にある中での姿> 6月

公園のシーソーで遊ぶ5歳児の姿 (保 = 保育者)	保育者の思い = ♥ 考察 = ●
<p>4歳児の時から、子どもたちの大好きなシーソー。いつもは両端に数人ずつ乗り、足を使って跳ね上下させることを楽しんでいますが、今日は遊び方が違う。</p>	<p>M児 A児 S児 H児 F児 R児 K児</p> <p style="text-align: center;">▲</p> 
<p>◆7名の子どもたちが両側に分かれて座り、真ん中の4人はどういうわけか横向きに座っている。</p> <p>保: 「何してるの？」</p> <p>H児: 「まっすぐにしたいねん! 先生、まっすぐになったら写真撮って!」と、傾きに合わせて体全部を移動させ始める。</p> <p>H児: シーソーの真ん中でバランスをとろうとしている。</p> <p>S児: 常に上がっている方(軽い方)に体を寄せている。</p> <p>H児: バランスを崩してシーソーから落ちる。</p> <p>周囲の子 H児がシーソーに戻るのを待ち、動きを止める。</p> <p>H児: (ちょっとくらい大丈夫! それより早く戻ろう) 再びシーソーに座る。</p> <p>K児: 様子を見るように降りる。</p> <p>シーソーはガタンと傾く。</p>	<p>♥ “まっすぐ” つりあった状態を楽しもうとしている。今までにはなかった遊び。なんだか楽しそうだ。子どもたちの思いにのってみよう。</p> <p>● “まっすぐなところ” = 左右のバランスの取れた状態は、写真に残そうという子どもなりの特別な思いと、一瞬で壊れてしまう状態のおもしろさを感じている。</p> <p>● この状況では、遊びの意図とシーソーの原理が分かっているのはS児。周りの子もS児の動きを見ながら、自分が何をするのか、自分の役割(じっとしていること)を感じ取ってきている。</p> <p>● K児は自分が降りてしまってシーソーが傾くということを経験して、やっと気付いたところもある。ただ座っているだけではなく、じっと座っていないだけでは成功しないと分かったようだ。</p>
<p>保: 「あ～あ・・・」</p> <p>K児: “自分が降りるとバランスが取れない” ことに気づき慌ててシーソーに戻ろうとしたが、その前に上がってしまったシーソーに座るため、シーソーを下げた。</p> <p>〔そこへシーソーを押えにやってきた数名の子どもたちが来て一緒にシーソーに乗ろうとする。仲間に入れてもらうことが目的のようだが、“まっすぐにする”という遊びに気づいておらず、仲間に入れてもらえず、その場を去る。〕</p>	<p>〔 ♥ ごめんね。今は、ちょっと待ってね。後で入れてもらおうね。 〕</p>
<p>◆先ほどの7人のメンバーで再び挑戦開始。</p> <p>◆S児中心となって体を動かしバランスをとる。</p> <p>周囲の子どもたち じっと息をこらして座る。</p> <p>K児: 均衡が取れているか試すために、足で軽く跳ね上げてバランスを試す。</p>	<p>♥ 再挑戦開始! 保育者も見ているワクワクするくらいの子どもたちの熱意が伝わる。絶対まっすぐになって写真撮ろうね!</p> <p>● 状況の把握が7人にできてきているのがよくわかる。先ほどの数名のやりとりの間に気持ちの休息と遊びの理解が全員にできたようだ。</p>
<p>◆まっすぐになりそうだ! と感じる。</p> <p>保: 「あ、いい感じ! でもKくんの方にちょっと傾いてる。Sさんが動いたら…あ～」</p> <p>A児: 思わず足を下げるようにして傾きをまっすぐにしようとする。</p>	<p>♥ 思わず声が出てしまう。実は先生も8人目の仲間なのよ!</p> <p>● バランスがとれ始めたので、狭いシーソーの上で、一人一人が体を微妙に動かしている。少しずつ動かだけでシーソーが傾く。最後は子どもたちみんながS児の動きを見守るように“まっすぐ”を楽しんでいた</p>
<p>保: 「OK! まっすぐになってる」そして…「はい、チーズ!」</p> <p>◆まっすぐのシーソー 撮影成功!</p>	

4歳児になり始めてのシーソーの姿 (保 = 保育者)	保育者の思い = ♥ 考察 = ●
<p>子どもたちは両端に2名ずつ、保育者の力を借りて交代で乗せてもらい、シーソーの上がり下がりの感覚を楽しむ。</p> <p><b>子どもたち</b> 遊びの列に並ぶ時、列の人数の少ない方に並び、できるだけ早く乗ろうとする。</p> <p>T児：どんなに列が長くても、決まった方に並んでいる。</p> <p><b>保</b>：しばらくしてから、声をかける。「Tちゃん、こっち空いてるからおいで。すぐ乗れるよ」</p> <p>T児：「いやや、こっちじゃないと“ドン”ってなれへんもん」</p> <p><b>保</b>：「“ドン”？」</p> <p>T児：「こっちは、お友達が降りたら“ドン”ってなるねん」</p> <p><b>保</b>：「わかった！Tちゃん、こっちおいで。“ドン”ってなるよ」</p> <p>T児：「本当？」</p> <p><b>保</b>：保育者とT児の場所を入れ代わり、T児と反対側の子どもを降ろす。</p> <p>T児：「先生、“ドン”ってなった！！」</p> <p>K児：(T児と同じ側に座っていた)「“ドン”ってなった！先生、もう一回して！」…繰り返すうちにどうすれば“ドン”を楽しめるかわかってきた様子。</p> <p>K児：「先生、次はあっち(自分の反対側)から降ろして」と言い、にやりと笑う。</p> <p>シーソーで上がり下がりを楽しむ遊びから、重さの違いで、シーソーが勢いよく下がることの遊びに移行していった。</p>	<p>♥ シーソーってやっぱり魅力があるのね。上がり下がりする、一緒に乗る相手によってスピード感も違う、足で地面を蹴り上げるなどの面白さを感じている。</p> <p>♥ T児が絶対こっちに並ぶのは…。何か感じてる？！何を感じているのかな？</p> <p>♥ やっぱり！何かある。何か気づいてる。T児の心の言葉を聞きたいな！焦らずしばらく様子を見よう。</p> <p>● 保育者が子どもを乗り降りさせる時に、T児の並んでいる方が、反動で“ドン”と降りる。</p> <p>♥ やっぱり！自分の楽しみ方を考えている。</p> <p>● T児が感じた“ドン”の面白さ。重い方が下がることが分かっているからではなく、保育者が同じ行動(同じ方向の子どもから降ろすこと)を繰り返す中での気づきのようである。重さの差が大きくなると重い方が勢いよく下がる。という気づきではないようだ。</p> <p>● とにかく勢いよく下がる“ドン”の面白さにしばらく付き合おう。でも“ドン”は反対側でもできることを知らせてみよう。</p> <p>♥ T児の「不思議？」「あれ？」っていう顔。一緒に乗っていたK児もT児の面白いに共感している。K児も何か感じているかもしれない。…焦らず焦らず…</p> <p>● K児は重さの差による反動で一気に下がることや、どうすればそうなるのかははっきりしてきており、願いをかなえるために、保育者に指示をしてくる。</p>

### 考察

- ・ 4歳児は、「“ドン”と下がるのがおもしろい」から「“ドン”と下がるにはどうしたらいい？」につながり、「“ドン”と下がるための方法」に気づいている。子どもが友達の影響を受けて得たものは大きく、子ども同士が遊ぶ中で、自然に体が重さを感じ楽しんでる様子が伺える。
- ・ 5歳児のシーソーをまっすぐにする遊びでは、シーソーをまっすぐにしたいという一心で、無意識のうちに重さを感じながら心をつなげて夢中になって遊んでいる。3歳・4歳時からの遊びの積み重ねと、友達と遊ぶ楽しさを感じられる仲間関係が、この“シーソーをまっすぐにする”遊びの大きな源になっていると思われる。

### ポイント

5歳児のシーソーに乗っている7名は、バランスをとって遊ぶシーソーの面白さを味わいながら成功したことを撮影するという目的をもって遊んでいます。4歳児はシーソーの動きの特徴から、自分なりの楽しみ方を考えついで遊んでいます。どちらも、シーソー遊び特有の体の動きを楽しむために、考えたり相手に思いを伝えたりして、意欲的に取り組んでいる姿です。保育者は、子どもの考えや思いに添って「科学する心」が育まれる体験が、充実感や満足感に結びつくように支えています。